

# まちづくり市民アンケートから

横須賀市都市政策室

都市政策課 坂下 光博

## はじめに

現在、横須賀市においては、市職員による手づくりの総合計画（基本構想・基本計画・実施計画）を策定中である。

まちづくり市民アンケートは、市民、市職員参加の一環として、市の将来像、施策、施設等への意識、意向を調査し、総合計画に反映させるために、昭和54年11月に実施した。

前回のアンケートは、昭和52年に郵送回収法で標本抽出、調査設計、分析等を市職員により行ったが、

- ①非常に時間がかかること
- ②調査項目数に制約を受けること
- ③回答内容に不備な点があったこと
- ④詳細な分析ができなかったこと
- ⑤有効回収率が低いこと

など問題点が多かったので、今回は、専門機関である新情報センターへ委託した。

今回のアンケートを総合計画に一層、反映させるために、調査票を作成するに当たり、各自治体、国、日本都市センターの資料、市専門委員の意見を参考として、総合計画の各担当者のディスカッションにより、つくりあげていった。また、委託先とも話し合いを重ね決定した。

## 調査内容について

調査対象者は、横須賀市在住の満20才以上の市民を選挙人名簿から、層化2段無作為抽出法に

より、1,300人を抽出した。

市職員については、横須賀市在住の職員を対象に、給与マスターから、単純無作為抽出法で、500人を抽出した。

調査項目は、

- ①市民からみた現状への評価と都市づくりの基本的方向
- ②地域社会の現状とその運営方向
- ③行政運営

の3分類で、質問数は37問である。

調査方法は、市民については調査員による個人面接法、市職員については、各人にアンケート用紙を配布しての記入依頼法を採用した。

調査期間は、昭和54年11月10日～12月2日までの約3週間、有効回収率は、市民1,061人、81.6%、市職員485人、97.0%であった。

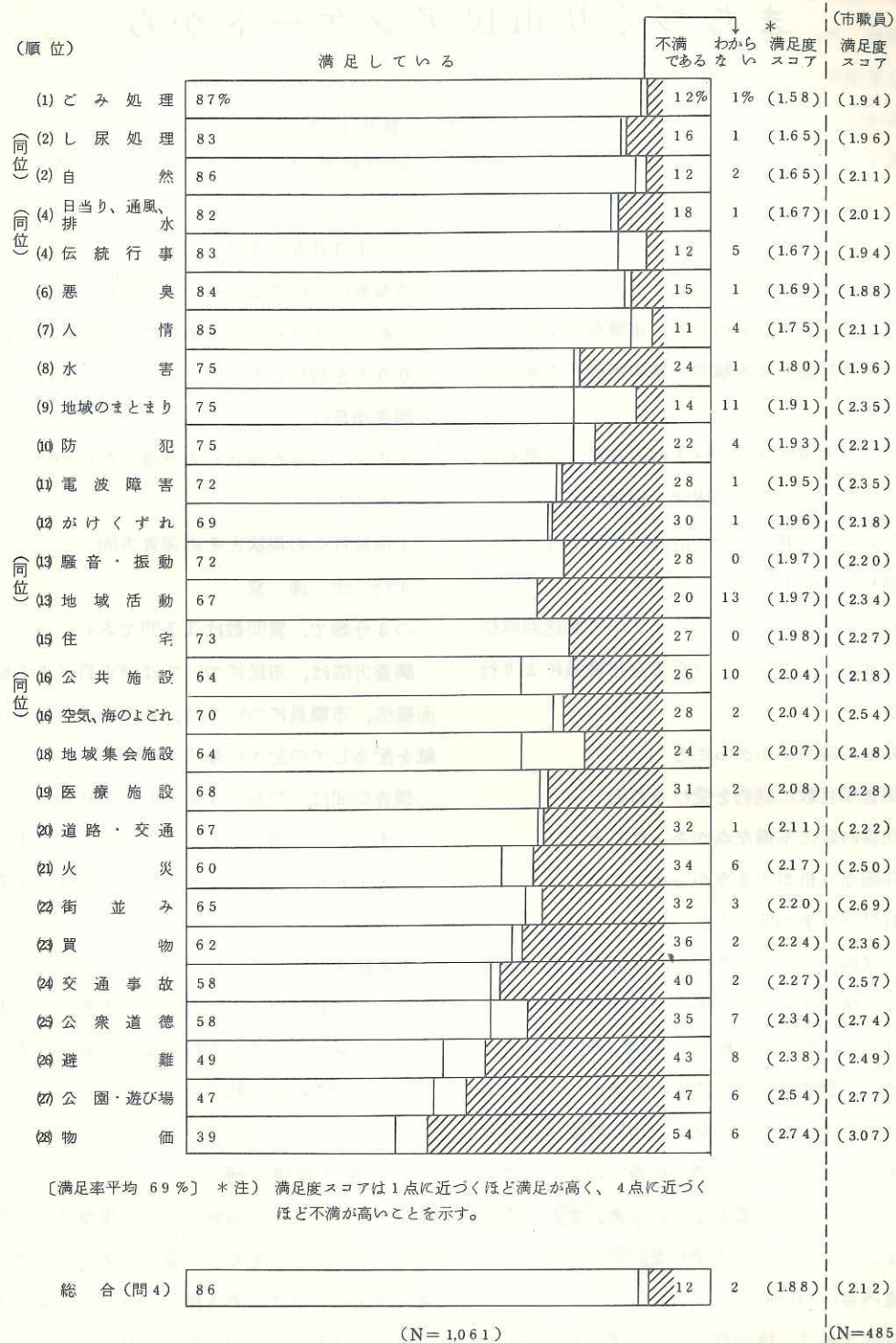
## 調査結果から

市民と市職員を同一調査項目で実施し、両者間の意識・意向の差等を把握しようと試み、その点を中心に調査結果を紹介しよう。

### (1) 生活環境評価

市民の住んでいる地域に対する環境評価は概ね満足しているといえる。「暮しやすさ」の調査結果を満足度スコアに置き換えてみると、満足率の全項目（28項目）の平均は7割弱であり、これは他都市のアンケート結果と比較しても、平均満

(図-1) 満足度スコア順位による「暮らしやすさの満足感」



足率はかなり高いといえる。

市職員の環境評価は全項目を通して、市民より満足率は低い。(図-1)

また、全項目を「暮らしやすさ」の領域の構造

別(表-1)にみると、市民は「利便性」と「安

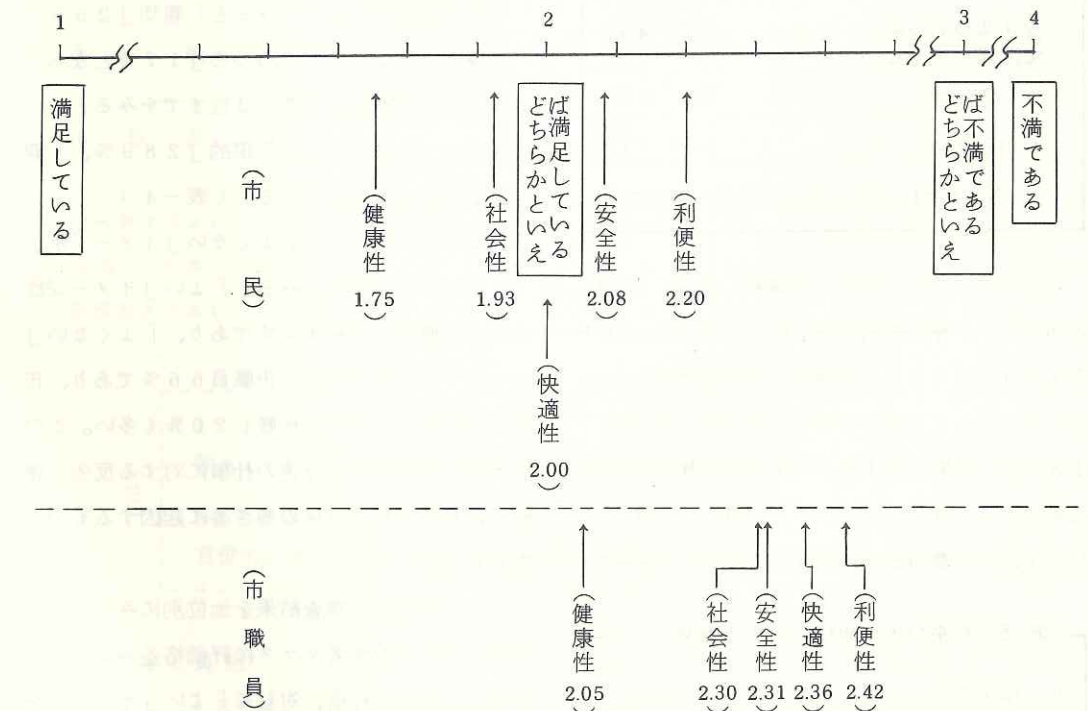
全性」の満足評価を普通程度として、他の領域は満足度が高い。市職員は「健康性」を普通程度と

して、他の領域の満足度は低い。(図-2)

(表-1)暮らしやすさの領域の構造

〔安全性〕 (6要因)	〔健康性〕 (4要因)	〔利便性〕 (6要因)	〔快適性〕 (7要因)	〔社会性〕 (5要因)
1) かけくずれ	7) 日当り、通風 など	11) 住宅	17) 電波障害	24) 公衆道徳
2) 水害	8) し尿処理	12) 道路・交通	18) 空気、川、海の 汚れ	25) 人情
3) 火災	9) ごみ処理	13) 買物	19) 騒音・振動	26) 伝統行事
4) 避難	10) 医療施設	14) 物価	20) 悪臭	27) 地域活動
5) 交通事故		15) 公共施設	21) 自然	28) 地域のまとまり
6) 防犯		16) 地域集会施設	22) 街並み	
			23) 公園、遊び場	

(図-2) 5領域の満足度スコア(平均)



このことは、市職員が毎日の仕事で生活環境の問題に直面、対応していること、他都市の状況を

市民より、よく知っていること等から、市民より厳しい評価結果になったと思われる。

(2) 開発と保全、人口について

市民、市職員とも「自然環境の調和がはかれるなら、ある程度開発してもよい」が、市民53.0%、市職員55.5%と多く、「これ以上開発を行うべきでない」は市職員の方が1.8%多い。「都市開発の原動力となるので開発してもよい」は市民の方が3.1%多い。(表-2)

(表-2) 宅地開発や工場進出などによる開発についての意見

問 あなたは、市内の宅地開発や工場進出などによる開発について、どのように考えていますか。この中〔カード〕のどれに近いでしょうか。

これ以上開発を行うべきでない	34.3 (36.1)
自然環境の調和がはかれるなら、ある程度開発してもよい	53.0 (55.5)
都市開発の原動力となるので開発してもよい	7.6 (4.5)
その他	0.1 (0.8)
わからない	5.0 (3.1)
N=1,061、カッコ内は市職員(N=485)	

人口については、市民と市職員の意識に非常に差が出た。「極力押えてほしい」は市職員57.9%、市民39.5%であり、市職員の抑制思考が18.4%も多い。「この程度の伸びでもよい」は市民48.7%、市職員31.8%であり、市民の人口増加要望が16.9%と多く、人口の伸びに対する意見は市民、市職員が逆の結果となった。(表-3)

(表-3) 将来の人口規模に対する意見

問 横須賀市の人口は現在42万人ですが、1年間に平均約7千人増えており、10年後には50万人程度になるとおもわれます。将来の人口規模についてあなたのお考えは、この中〔カード〕のどれに近いでしょうか。

もっと増加した方がよい	5.0 (1.6)
この程度の伸びでよい	48.7 (31.8)
極力押えてほしい	39.5 (57.9)
わからない	8.7 (6.8)

N=1,061、カッコ内は市職員(N=485)

このことは、市民も無秩序な開発を望んでいるわけではない(表-2)から、人口増に対する一般的な考え、①人口増が都市発展の起動力、②人口規模による都市の格づけ等に原因があるのではないか。市職員は、土地利用、自然保護、開発に伴う学校等の都市施設に対する財政負担等からみて、人口を「極力押えてほしい」と行政の専門家としての立場からの意見が強く反映されたのではないかと思う。

(3) 市役所に対するイメージ

市民の回答を3位までみると「親切」25%、「官僚的」22%、「のろのろ」17%となっている。一方市職員の回答の3位までをみると、「保守的」32.6%、「官僚的」28.9%、「親切」27.8%となっている。(表-4)

「よい」イメージ、「よくない」イメージ別(図-3)の集計結果でみると「よい」イメージは市民、市職員とも約45%であり、「よくない」イメージは市民46%、市職員66%であり、市職員の回答は、市民に比較し20%も多い。このことは、市職員の自分達の仕事に対する反省、謙遜、自意識過剰、自信の弱さ等に起因するものと思われる。

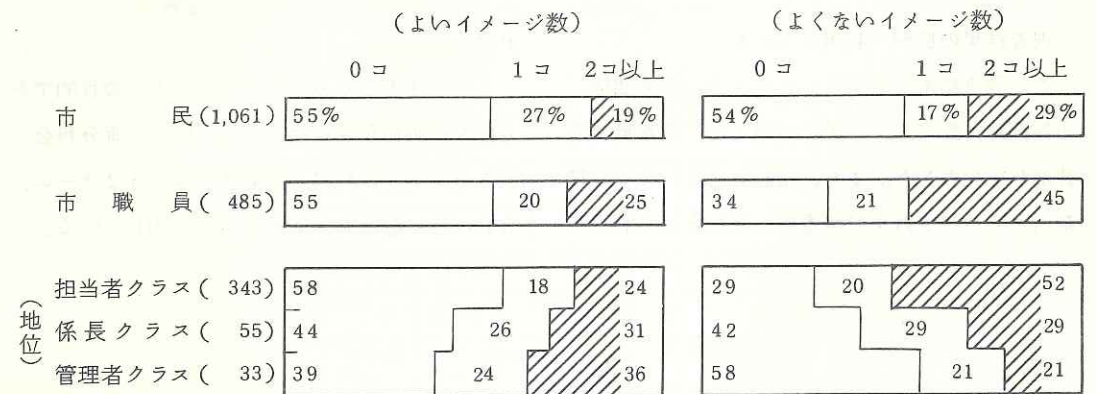
また、市職員の調査結果を地位別にみると、担当者クラスと管理者クラスに評価格差がある。管理者クラスは市役所に対して「よい」イメージを持ち、担当者クラスは「よくない」と評価している。

(表-4) 市役所に対するイメージ

問 あなたは、日頃、市役所に対してどのような感じをもっていますか。この中〔カード〕であてはまる答があれば、いくつでもあげてください。(M.A.)

頼もしい	4.8 (6.8)	閉鎖的	4.0 (11.8)
官僚的	21.6 (28.9)	無駄使い	7.9 (12.8)
てきばき	6.1 (7.2)	冷たい	12.8 (15.1)
横柄	12.2 (17.1)	進歩的	2.2 (4.3)
開放的	4.6 (7.0)	保守的	10.2 (32.6)
儉約	0.4 (5.6)	明るい	10.7 (9.5)
暖かい	7.1 (7.6)	暗い	4.4 (6.6)
頼りない	7.8 (14.4)	その他	0.8 (0.4)
庶民的	12.4 (13.0)	わからない	18.0 (7.2)
のろのろ	17.1 (22.1)		
親切	25.3 (27.8)		
N=1,061、カッコ内数字は市職員(N=485)			

(図-3) 市民、市職員(地位別)にみた市役所に対するイメージ



(注) (よいイメージ) …………… 9コ  
 頼もしい、てきばき、開放的、儉約、暖かい、庶民的、親切、進歩的、明るい  
 (わるいイメージ) …………… 9コ  
 官僚的、横柄、頼りない、のろのろ、閉鎖的、無駄使い、冷たい、保守的、暗い

(4) 受益と負担

公共施設をつくるに当たっての受益と負担については、「負担がふえるなら、おくれてもやむをえない」が市民47.6%、市職員32.8%、「負担がある程度ふえても早くつくってほしい」が市

民33.3%、市職員36.5%(表-5)であり、市民の負担意識は市職員より低い、市職員は自分の仕事の一部として、公共施設を望んでいること、公共施設の地域格差を知っていることが原因と思う。

また、市民一人一人は、公共施設を利用するといっても、年間にすれば回数は少なく、負担をふやしてまでの必要性は感じていないのかも知れない。

これからの公共施設の建設に当たっては、今まで以上に、タックスペイヤーの発想に基づき、施設の地域格差、必要度、利用度、管理運営等から、優先順位を明確にしていく必要があると思われる。

(表-5) 公共施設と税金

問 公共施設は税金でつくるのが当然ですが、今のように低成長時代の財政では施設をつくることがどうしてもおくれがちになります。あなたは、ある程度ご自分の負担がふえても、そのような施設を早くつくってほしいと思いますか、それとも負担がふえるのなら、施設がおくれてもやむをえないと思いますか。

負担がある程度ふえても早くつくってほしい	33.3 (36.5)
負担がふえるのなら、おくれてもやむをえない	47.6 (32.8)
その他	1.3 (2.7)
わからない	17.8 (28.0)

N=1,061、カッコ内数字は市職員(N=485)

調査結果の広報、利用について

この調査結果は市議会、マスコミ、関係団体、市各部課に配布し、市民については、広報紙で主要部分を発表した。また、市制記念日にテレビ神奈川から放映された討論番組の素材として利用

PRした。

この「まちづくり市民アンケート」の目的である総合計画に反映させるため、総合計画分科会(5分科会、33人)、課題チーム(52チーム、345人)に配布し、計画策定に利用している。

